

ファイナル風

(現場)からの

宮田守男

4月中旬に大町市運動公園で開催された第60回北信越壮年ソフトボール大会長野県予選に審判員として参加するため早朝に大町に向

かう。土曜日には白馬村沢渡地域、日曜日には佐野地域の皆さんが国道歩道などで清掃活動が行われていた。

暮末に来日した英国の陶芸家R・フォーチュンさんは「日本人の国民性の著しい特色は、下級階層でもみな生来の花好きであることだ」「花を愛する国民性が人間の文化生活の高さを証明する」と記している。地域全体で清掃活動を継続する両地区でも、家の前には好みの草花を植え込み地域全体が整っている。この文化が続く事が、大勢の人達に再び訪れてみたいと想わせ

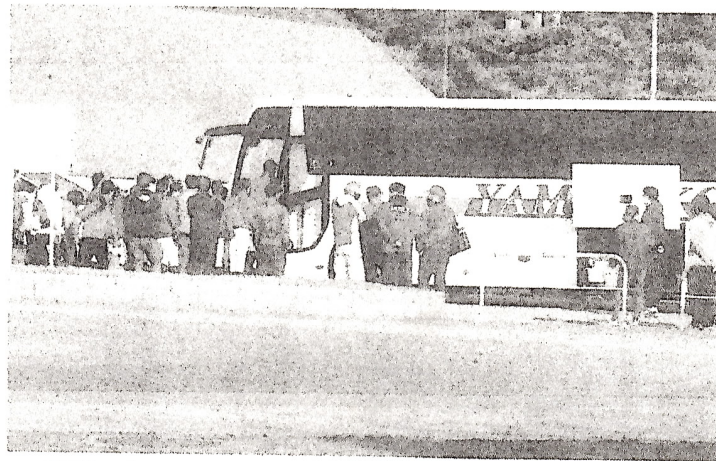
る。これらの活動を積極的に支援する仕組みが大切と行政や地域関係者も考えてほしい。開催された大会の優勝・準優勝チームは、富山県で開催される北信越壮年ソフトボール大会に長野県代表として出場できると県内から24チームが参加して熱戦が繰り広げられた。選手の意識の高さから大会から帰路に際して関係者に「コロナ禍、大会を開催して本当に有難うございます」と感謝の言葉が聞かれ

た。「第一印象に二度目はない」だからこそ「はじめまして」の挨拶は、「笑顔で挨拶」との教えを勧める社会教育がある。このメンバーなら長野県代表に人間性としても相応しいなど強く感じてる事

「第一印象に二度目はない」心掛けた教えた

て出場できると県内から24チームが参加して熱戦が繰り広げられた。選手の意識の高さから大会から帰路に際して関係者に「コロナ禍、大会を開催して本当に有難うございます」と感謝の言葉が聞かれ

「知らない街を歩いてみたい、どこか遠く行きたい」思わず口ずさんでみたい歌だ。1962年に永六輔作詞、



運動公園駐車場、伊那での大会に参加する選手達を励ます保護者の熱意が伝わってくる

中村八作曲の「遠くに行きたい」だ。コロナ禍で外出が制限され、心をつらな気持ちで過ごしている。心をつらな気持ちで過ごしている。心をつらな気持ちで過ごしている。

土地を巡らせてくれた歌でもある。

「遠くに行きたい」の歌詞は、知らない街を訪ねてみたいと始まるのだが「ながめてみたい」ではなくて、見知らぬ大北地域にもぜひ訪れて、まだ残雪残る山並みと、新緑眩しい里を楽しんでほしい。サムエル・ウルマンの著書『青春』に「年を重ねただけでは人は老いない。理想を失う時に初めて老いがくる」と。年は七十であろうと、十六であろうと人生への興味は抱き続けたいものだ。(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)